



Japan Society for Tobacco Control

日本禁煙学会

<http://www.jstc.or.jp/> E-mail desk@nosmoke55.jp
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

週刊新潮の特集「ニコチンでアルツハイマーが防げる！ 愛煙家の胸が晴れた。」を指弾する。

週刊新潮 編集長 宮本太一様

2019年1月18日

一般社団法人 日本禁煙学会 理事長 作田 学

貴誌2019年1月24日号に、「ニコチンでアルツハイマーが防げる！ 愛煙家の胸が晴れた」との記事が掲載されました。しかしながらその内容は事実に反しており、なおかつ根拠とする研究に利益相反の問題があります。

過去に、ニコチンがアルツハイマー病を予防するとの非科学的な説が、タバコ産業およびタバコ産業のお抱え学者から流布されていた時代がありました。その後、中立的機関による多数の研究が行われ、喫煙がアルツハイマー病を増加させるとの一貫した結果が示されています。一例では、喫煙者は非喫煙者に比べて1.79倍アルツハイマー病になりやすい、つまり喫煙をすると発病が8割も増えるとされています¹⁾。

記事において根拠としている研究は、ニコチン投与により幹細胞が神経細胞に変化する率がわずかに増えたというマウスの動物実験で、神経変性疾患であるアルツハイマー病の発症機序とは無関係です。

しかも、この研究を行った米田幸雄名誉教授は、JTなどタバコ産業の出資によって運営されている喫煙科学研究財団から1200万円もの研究援助を受けたタバコ産業のお抱え学者であり、この研究は利益相反の点で中立性を欠いています。

医学的に誤っているばかりか、利益相反の問題を有した研究を基にした記事を読んだ喫煙者が禁煙を思いとどまることにより、アルツハイマー病をはじめとする喫煙関連疾患の犠牲になることがあってはならないと私たちは考えております。

したがって、本記事の削除と、確実な医学証拠に基づいた「喫煙（ニコチン）はアルツハイマー病を増やす」との記事の速やかな掲載を要求いたします。

1) Anstey KJ, et al: Smoking as a risk factor for dementia and cognitive decline: a meta-analysis of prospective studies. Am J Epidemiology, 166(4): 367-378, 2007

